

一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸
2022 年度 第 1 回 高大連携委員会 次第

日 時：2022 年 5 月 10 日（火）10:00～11:30

場 所：オンライン会議（ZOOM）

1 開会

1) 委員長・副委員長挨拶

2) 委員紹介

(資料 1)

2 報告事項

1) 大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期（2022～2026）について (資料 2)

2) 事業委員会申し合わせについて (資料 3)

3 協議事項

1) 2022 年度事業計画（詳細）・予算について (資料 4)

4 連絡事項

1) 2022 年度 高大連携委員会 回答フォーマットの記入依頼について (資料 5)

2) 定時総会予定

日時：6 月 1 0 日（金）1 0 : 0 0 ～ 1 1 : 1 5

5 意見交換

6 閉会

以上

<資料一覧>

資料 1：2022 年度高大連携委員会名簿

資料 2：大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期（2022～2026）

資料 3：事業委員会申し合わせ

資料 4-1：高大連携委員会 事業計画（詳細）・予算（案）

資料 4-2：2014 年度～2021 年度「ひょうご高校大学コンソーシアム」開催内容について

資料 5：高大連携委員会 回答フォーマット

【2022 高大連携委員会】

委員長校：関西国際大学

副委員長校：神戸松蔭女子学院大学・甲南大学

連番	加盟校	法人名	学校名	所属	役職	氏名
1	1	学校法人濱名山手学院	関西国際大学	経営学部 経営学科	副学長	山下 泰生
2		学校法人濱名山手学院	関西国際大学	観光学科	高大連携センター長	前田 哲男
3		学校法人濱名山手学院	関西国際大学	入試課	担当課長	藤原 隆之
4	2	学校法人 関西学院	関西学院大学/聖和短期大学	入学センター	センター副長 教職教育研究センター教授	久保田 真功
5	3	学校法人 関西学院	関西学院大学/聖和短期大学	入学センター	課長補佐	花 梨恵
6	4	学校法人 甲南学園	甲南大学	高大接続推進企画運営委員会	委員長	茶山 健二
7		学校法人 甲南学園	甲南大学	アドミッションセンター	課長補佐	今野 令吏
8	5	国立大学法人 神戸大学	神戸大学	学務部学務課	課長	土本 達也
9		国立大学法人 神戸大学	神戸大学	学務部学務課	専門職員	今川 梨恵
10	6	学校法人 海星女子学院	神戸海星女子学院大学	心理こども学科	教授	尾崎 秀夫
11		学校法人 海星女子学院	神戸海星女子学院大学	アドミッションセンター	課長	天野 武史
12	7	学校法人 神戸学院	神戸学院大学	入学・高大接続センター	所長	佐々木 康人
13		学校法人 神戸学院	神戸学院大学	入学・高大接続センター	事務部長	荒谷 喬也
14	8	学校法人 松蔭女子学院	神戸松蔭女子学院大学	入試・広報課	次長	小前 正明
15		学校法人 松蔭女子学院	神戸松蔭女子学院大学	入試・広報課	課長	川波 豊
16	9	学校法人 親和学園	神戸親和女子大学	アドミッションセンター	センター長	富田 哲浩
17		学校法人 親和学園	神戸親和女子大学	アドミッションセンター 事務室	課長	小山 良太
18	10	学校法人 玉田学園	神戸常盤大学	医療検査学科	教授	大澤 佳代
19		学校法人 玉田学園	神戸常盤大学	入試広報課	課長	竹田 誠
20	11	学校法人 玉田学園	神戸常盤大学短期大学部	医療検査学科	教授	大澤 佳代
21		学校法人 玉田学園	神戸常盤大学短期大学部	入試広報課	課長	竹田 誠
22	12	学校法人 頌栄保育学院	頌栄短期大学	保育科	教授	高山 育子
23		学校法人 頌栄保育学院	頌栄短期大学	入試広報室	課長	内田 康太郎
24	13	学校法人 園田学園	園田学園女子大学	入試広報部	室長	佐々木 傑三
25		学校法人 園田学園	園田学園女子大学	入試広報部	一般職	大河内 敦史
26	14	学校法人 園田学園	園田学園女子大学短期大学部	入試広報部	室長	佐々木 傑三
27		学校法人 園田学園	園田学園女子大学短期大学部	入試広報部 広報戦略室	一般職	大河内 敦史
28	15	学校法人 獨協学園	姫路獨協大学	人間社会学群	入試センター長（教授）	岡本 悌二
29		学校法人 獨協学園	姫路獨協大学	教務部入試課	課長	藤田 陽祐
30	16	学校法人 睦学園	兵庫大学	入学課	高大接続推進担当課長	岩田 薫
31	17	学校法人 睦学園	兵庫大学短期大学部	入学部入学課	高大接続推進担当課長	岩田 薫
32	18	学校法人 兵庫医科大学	兵庫医科大学	薬学部医療薬学科	教授／副学長	田中 稔之
33		学校法人 兵庫医科大学	兵庫医科大学	大学事務部入試課	課長	坂口 貴志
34	19	兵庫県公立大学法人兵庫県立大学	兵庫県立大学		副学長	高坂 誠
35		兵庫県公立大学法人兵庫県立大学	兵庫県立大学	教育企画部教育企画課	次長兼課長	三嶋 良宜

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期
(2022年度～2026年度)

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸の中長期計画Ⅰ期(2017年4月1日～2022年3月31日)における取組内容とその成果を継承して、中長期計画Ⅱ期(2022年4月1日～2027年3月31日)を策定する。さらに、今後も想定される災害やコロナ禍における社会環境の変化への迅速な対応、人口減少社会・少子超高齢化社会、18歳人口の減少における大学をめぐる状況にも留意し、大学単独で取り組むには困難な課題について、大学プラットフォームの多面的な資源を活用して取り組む。大学間連携・産官学連携での人的交流ならびに人材育成、加盟校の多面的な教育活動に寄与する計画とする。

[ビジョン・目標]

大学間連携・産官学連携で「人がつながり、多様な学びを共創する“ひょうご神戸”」

兵庫県内の大学が連携して、地方自治体、産業界とともに、「若者が育ち、活躍する県」であることのメッセージを発するとともに、人生100年時代を迎え、多様な学びを提供する大学コンソーシアムひょうご神戸の取組を通じて、兵庫県と加盟校の魅力を県内外に発信する。兵庫県内の若者人口の増加、大学教育・地域創生への貢献が明確に可視化される活動を展開する。

大学間連携組織の特徴を生かした産官学連携のあり方として、「人」を繋ぐ、「組織」を繋ぐ、「情報」を集約できる場をめざす。

大学コンソーシアムひょうご神戸が、大学間連携組織の特徴を生かして、産官学連携による人材育成・教育支援に取り組み、地域に貢献できるような大学プラットフォームを構築する。そのために以下の4つの柱での取組事業を実施する。

1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携
2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援
3. 県内大学の教育・研究の質を高める多面的学びの提供
4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築

[体制] プラットフォーム：ひょうご産官学連携協議会



加盟校数、賛助会員数は、2021 年 12 月現在

[具体的な取り組み内容]

上記の課題を踏まえ、中長期的な目標を設定し、①情報の共有と発信②人的交流の促進③ステークホルダー（地方自治体・企業・地域・高等学校等）との有機的連携の3つを重点項目として取り組む。

1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携

①地域の活性化のための県内企業への就職率の向上

（加盟校学生と県内企業とのマッチングに向けた連携）

【取組1】大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクトの実施

（目標）各年参加者数 500 名以上

（内容）兵庫県の年齢別転出超過で最も多いのは、大学卒業・就職を契機とした若者であり、県内大学卒業者の『県内企業への就職率』は、3割弱に過ぎず、7割以上が県外に本社のある企業に就職している。その要因の一つとして、大学生の県内企業への理解不足があると考えられる。県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深める機会を提供する。地元企業と加盟校が連携することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、地域の活性化を実現する。

（担当）キャリア部門

【取組2】県内企業・団体等の魅力を情報発信

（目標）情報公開企業・団体数 120 社以上

（内容）地域の産業界の協力を得て県内企業や団体等の情報を収集し、大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公表するとともに、兵庫県内の職業紹介サイト等との連携も図る。加えて、県内企業・団体等が求める人材について、情報交換会等を通じ、企業と大学間で人材ニーズと人材育成に関する情報の共有と相互理解を深める。

（担当）キャリア部門

②県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続

【取組1】大学と高等学校の意見交換会の実施

（目標）各年参加校数 20 校以上

（内容）教育委員会等と連携して兵庫県下の高等学校と大学との意見交換の場である「ひょうご高等学校大学コンソーシアム」等において、兵庫県での高大連携・接続の具体的な課題についての定期的な意見交換を行い、兵庫県下の高大連携を深める。

（担当）高大連携部門

【取組2】加盟校の魅力を情報発信

（目標）各年情報提供先数 高等学校等 200 校以上

（内容）加盟校に関する情報発信を強化し、加盟校への進学率の向上を図る。生徒が高校生から大学生、社会人になるまでの学びのルートマップを描けるような情報を発信する。

（担当）高大連携部門

③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進

【取組１】テーマ型の学生交流プロジェクトの実施

（目標）各年参加者数 50 名以上

（内容）他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクトを実施する。主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。

（担当）学生交流部門

【取組２】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施

（目標）情報公開数 200 取組以上

（内容）加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公開する。各年、継続的に事例紹介を重ねることにより、本計画期間内で 200 取組以上を紹介する。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。

（担当）学生交流部門

2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援

④外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進

【取組１】留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの実施

（目標）各年参加者数 500 名以上

（内容）“ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル人材育成を目指した事業を展開する。プラットフォームを活用した留学生就職促進事業として、大学、行政、企業が連携し、新たなネットワークを構築することで留学生の受入環境づくりを促進し、卒業後の県内企業への就職の動機付けを図る。

（担当）キャリア部門

⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進

【取組１】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施

（目標）各年参加者数 500 名以上

（内容）兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（日本学生支援機構委託事業）にお

いて、大学間連携による国際交流の拠点を、兵庫国際交流会館を起点に大学キャンパス外の地域社会に形成することを推進する。留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。

(担当) 国際交流部門

【取組2】 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進

(目標) プログラム数 10 件以上

(内容) 大学コンソーシアムひょうご神戸のネットワークを生かして、加盟校主催の国際交流イベントの情報を収集し、加盟校間の情報共有を行う。本計画期間内において、段階的に加盟校が主催する国際交流プログラムと連携することにより、大学の枠を超えた加盟校間の留学生・日本人学生等の交流を促進させる。

(担当) 国際交流部門

3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供

⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

【取組1】 加盟校間での FD・SD セミナーの公開

(目標) 各年セミナー数5件以上

(内容) 加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

(担当) FD・SD 部門

【取組2】 FD・SD 情報交換会、セミナー等の開催

(目標) 各年参加者数 50 名以上

(内容) 加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

(担当) FD・SD 部門

⑦大学間連携による多様な教育ニーズへの対応

【取組1】 単位互換事業の実施

(目標) 各年開放科目数 10 科目以上

(内容) 加盟校において幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や加盟校の特徴を生かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。

(担当) 教育連携・教務部門

【取組2】 多様な学修機会の提供

(目標) 各年プログラム数 5 件以上

（内容）加盟校に通う学生等に、多様な学修機会を提供するため、本計画期間内において、段階的に加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する（ICT を活用したコンテンツ、専門領域や分野横断型のプログラム等）。

（担当）教育連携・教務部門

⑨県内大学を活用した社会人の学びなおしの推進

【取組１】リカレント教育の普及促進に向けた取組

（目標）各年参加者数 50 名以上

（内容）加盟校によるリカレント教育の推進・理解促進に向けたセミナー・情報交換会等を開催する。産官学で連携したリカレント教育推進に関するネットワークを構築する。

（担当）リカレント教育部門・企画運営委員会

【取組２】加盟校のリカレント教育に関する情報発信

（目標）各年 10 校以上

（内容）大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページで加盟校が開講するリカレント教育に関する取組情報を発信する。

（担当）リカレント教育部門・企画運営委員会

4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築

⑨大学資源を活用する地域プラットフォームの形成

【取組１】大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築

（目標）大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充

（内容）兵庫県下で大学間連携のプラットフォームとして、加盟校の大学資源を生かす運営体制を本計画期間内において、段階的に構築する。また、加盟校がすでに有している大学間連携・地域・地方自治体との連携体制の理解促進も図る。

（担当）企画運営委員会

【取組２】緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築

（目標）緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築

（内容）感染症（新型コロナウイルス感染症等）や災害対応等、災害・緊急事態対応等の不測の事態に備えて、定期的に加盟校が蓄積する経験や知見の情報収集を行い、共有する。本計画期間内において、段階的に情報共有を重ねることにより、有事の際に速やかに情報共有・情報提供ができる体制の構築を目指す。

（担当）企画運営委員会

⑩県内大学が活性化する事業運営体制の整備

【取組１】加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進

（目標）加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築

（内容）加盟校教職員が大学間連携活動に積極的に参画できる事業運営体制を本計画期間内において、段階的に検討・構築する。同じ課題を有する加盟校による小グループで課題の共有、ICTの活用、プロジェクト型での事業推進等のニーズに合わせて、事業運営体制の整備に取り組む。

（担当）企画運営委員会

上記の中長期計画に基づき、各年度毎の事業計画を別途作成し、各プログラムの具体的な活動指標を個別に定めて事業を推進する。なお、中長期計画を実施する計画ならびに担当については、年度毎の見直しにより変更することがある。

以 上

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会運営に関する申し合わせ

企画運営委員会

1. 目的

この申し合わせは、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸(以下「コンソ」という。)定款第38条に基づき設置した事業委員会の運営について、必要な事項を定めるものとする。

2. 事業委員会の組織

- ・事業委員会は、正会員の教職員からなる委員により、構成する。
- ・事業委員会の委員は、正会員あたり原則2名(教員1名、職員1名)とし、毎年度、第1回委員会開催までにコンソ事務局に登録する。

3. 委員長校、副委員長校

- ・事業委員会は、委員長校、副委員長校を置く。但し、副委員長校は複数校置くことができる。
- ・委員長校は、副委員長校と連携し、事業計画の策定、事業委員会の招集、審議など、事業委員会の円滑な運営に努める。
- ・副委員長校は、委員長校を補佐し、委員長校が不在の場合は、職務を代行し、事業委員会の円滑な運営に努める。
- ・委員長校、副委員長校の任期は、2年とし、再任は妨げない。
- ・任期満了に伴う改選は、コンソ事務局が、委員長校、副委員長校の意見を聴取の上、企画運営委員会で協議し、理事会で決定する。
- ・委員長校は、原則として理事校が担当する。但し、理事会が認める場合、理事校以外の正会員が担当することができる。

4. 事業委員会の任務

- ・事業委員会は、理事会において決定された事業方針に則り、事業の具体的な計画・実施・報告(自己評価)を行う。
- ・事業委員会は、必要に応じ情報を共有する。

5. 事業委員会の招集・議事

- ・事業委員会は、委員長が必要と認めたとき、又はそれぞれの事業委員会を構成する正会員の半数以上からの請求があったときに委員長が招集する。
- ・事業委員会の委員長は、事業委員会の承認を経て、「正会員当たり原則2名の委員」に拘らず、計3名以上の者もしくは委員以外の者を出席させることができる。

6. 成立要件(定足数)

- ・事業委員会は、それぞれの事業委員会を構成する正会員の過半数の出席をもって成立とする。
- ・委員が欠席し、代理者が出席した場合は、その委員は出席したものとみなす。
- ・「委任状」の制度は用いない。
- ・事業委員会は、対面、オンライン、書面又は電磁的記録による会議方式によって開催する。

7. 議決権及び議決数

- ・正会員あたり各 1 個の議決権を有し、議事は出席した正会員の過半数をもって決する。なお可否同数のときは委員長の決するところとする。

8. プログラム担当校

- ・事業委員会において、必要に応じ、プログラムを主に担当するプログラム担当校を置くことができる。
- ・プログラム担当校は、委員長校・副委員長校と相談のうえ、プログラムの計画、実施、報告(自己評価)を行う。
- ・委員長校・副委員長校がプログラム担当校となることを妨げない。

9. 事業委員会事務局

- ・事業委員会に関する事務は、コンソ事務局と事業委員会の事務局(委員長校・副委員長校)が連携して行う。

10. 改廃

- ・この申し合わせの改廃は、企画運営委員会の議を経て、理事会で決定する。

附記

- ・この申し合わせは、2019年4月1日から施行する。
- ・この申し合わせは、2022 年4月 1 日から改正施行する。
- ・「3.委員長校、副委員長校」の任期について、2022 年度は、新たに任命された委員長校、副委員長校を含め 1 年とする。

以 上

【2022年度 高大連携委員会 事業計画】

委員長校：関西国際大学

副委員長校：甲南大学、神戸松蔭女子学院大学

委員校：関西学院大学、聖和短期大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、
神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、
園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、
兵庫大学短期大学部、兵庫医科大学、兵庫県立大学 計19校

<目的>

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題②】県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続

上記の体制の構築並びに、必要な新規のプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

<内容> 取組課題②に対する「個別取組」は、下記の通り。

1. 大学と高等学校の意見交換会の実施

教育委員会等と連携して、兵庫県下の高等学校と大学との意見交換の場である「ひょうご高校大学コンソーシアム」等において、兵庫県での高大連携・接続の具体的な課題についての定期的な意見交換を行う。

2. 加盟校の魅力を情報発信

加盟校に関する情報発信を強化し、加盟校への進学率の向上を図る。
生徒が高校生から大学生、社会人になるまでの学びのルートマップを描けるような情報を発信する。

上記の取組について、運営体制の構築と推進は、中長期計画Ⅱ期5ヵ年において段階的に取り組む。
期中において新規事業やプロジェクト企画の必要性がある場合は、本委員会にて検討して事業推進を行う。

<期待される効果>

1. 大学と高等学校の意見交換会の実施

兵庫県立高等学校と設置した意見交換の場「ひょうご高校大学コンソーシアム」を継続的に開催していくことにより、県下大学と高校の高大連携をめぐる多くの課題を共有し、県内大学と高校における教育の連携を通じた人材育成の取り組みを促進する。大学と高校教職員の相互理解と人的ネットワークを構築が期待できる。

2. 加盟校の魅力を情報発信

高校並びに教職員・学生に対して、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の魅力を伝えることで、大学での学びに対する理解を深め、進路選択と県内大学への進学率の向上に寄与する。さらには、生徒の大学進学後の学生生活の充実と大学で主体的に学び続ける意欲を高める効果が期待できる。

課題② 県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続		予算額
取組1	大学と高等学校の意見交換会の実施 「ひょうご高校大学コンソーシアム」	200,000円
取組2	加盟校の魅力を情報発信	200,000円

【2022年度 高大連携委員会 事業計画(課題②取組1)】

【②取組1】達成目標	各年参加校数20校以上
【②取組1】活動指標	意見交換会等の実施/年1回以上

課題②	県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続			
達成目標 【②取組1】	各年参加校数20校以上			
課題を解決する 取組概要 【②取組1】	大学と高等学校の意見交換会の実施 「ひょうご高校大学コンソーシアム」			
活動指標 【②取組1】	意見交換会等の実施/年1回以上			
内容 (計画)	「ひょうご高校大学コンソーシアム」の開催 兵庫県下の県下高等学校・教育委員会・加盟校との意見交換の場である「ひょうご高校大学コンソーシアム」を開催する。 ・県下大学と高校の高大連携をめぐる具体的な課題を共有し、県内大学と高校における教育の連携を通じた人材育成の取り組みを促進する。 ・2016年から実施している本取組を継続開催することで、大学と高校教職員の相互理解と人的ネットワークの構築を図る。			
新しい試み等 (事業計画に記載)				
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	200000円			

自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	

■自己評価基準
(対到達目標)

4: 当初計画を上回って達成
 3: 当初計画を達成
 2: 当初計画をやや下回った
 1: 当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

4: 本プログラムは継続すべき
 3: 本プログラムは継続しても良い
 2: 本プログラムの継続には改善が必要
 1: 本プログラムは中止すべき

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	
--------------------------------	--

【2022年度 高大連携委員会 事業計画(課題②取組2)】

【②取組2】達成目標	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上
【②取組2】活動指標	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載・アンケート等の実施/年1回以上

課題②	県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続			
達成目標 【②取組2】	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上			
課題を解決する 取組概要 【②取組2】	加盟校の魅力を情報発信			
活動指標 【②取組2】	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載・アンケート等の実施/年1回以上			
内容 (計画)	<u>1. 2022年度合同進学説明会</u> 大学への進路選択にむけて、高校生と保護者、高校教員等を対象とする共同の説明会(オンライン)を開催する。 <u>2. 県内大学等の情報提供の実施</u> 高校並びに教職員・学生に対して、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の魅力を伝えることで、大学での学びに対する理解を深め、進路選択と県内大学への進学率の向上に寄与する。さらには、生徒の大学進学後の学生生活の充実と、主体的に学び続ける意欲を高めるべく、大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページに「オープンキャンパス情報」「まなび発見マップ」等を掲出する。			
新しい試み等 (事業計画に記載)	「探究」等をテーマにした高大連携に関する情報共有の一環として、コンソーシアムホームページ上で加盟校の取組事例について情報発信を行う。			
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	200000円			

自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	

■自己評価基準
(対到達目標)

4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	
--------------------------------	--

2022年度 高大連携委員会 事業予算

(単位:円)

		予算	各プログラム 予算				委員会 予算	
			取組1		取組2			
			大学と高等学校の意見交換会の実施 「ひょうご高校大学コンソーシアム」		加盟校の魅力を情報発信			
			内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額
収入	会費収入	500,000		200,000		200,000		100,000
	助成事業収入	0						
	受託事業収入	0						
	プログラム収入	0						
	雑収入	0						
	戻入金	0						
	計	500,000	200,000		200,000		100,000	
支出	会議費	15,000	お茶代等	10,000			お茶代	5,000
	旅費交通費	40,000	交通費	30,000			交通費	10,000
	通信運搬費	60,000			通信費等	20,000	通信費等	40,000
	消耗品費	15,000	消耗品	5,000			消耗品	10,000
	新聞図書費	10,000					参考図書	10,000
	印刷製本費	50,000			チラシ等	50,000		
	光熱水料費	0						
	賃借料	50,000	会場費	50,000				
	保険料	0						
	謝金	140,000	謝金	100,000	謝金	40,000		
	租税公課	0						
	支払手数料	5,000	振込手数料	5,000				
	諸会費	25,000					フォーラム参加費	25,000
	委託費	90,000			HP等編集制作費	90,000		
	人件費	0						
	接待交際費	0						
	支払支援金	0						
	雑費	0						
	計	500,000	200,000		200,000		100,000	

収入－支出	0
-------	---

「ひょうご高校大学コンソーシアム」

2014 年度～2020 年度（平成 26 年度～令和 2 年度）の開催内容について

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

●2014 年度（平成 26 年度）第 1 回「ひょうご高校大学コンソーシアム」初開催

兵庫県教育委員会との連携で、高校と大学による初めての意見交換会「ひょうご高校大学コンソーシアム」を開催。高校教育、大学教育の一体的な連携のため、県下の高等学校、大学コンソーシアムひょうご神戸の加盟大学、兵庫県教育委員会が連携して、高大連携・高大接続をめぐる多くの課題について継続的に意見を交換し、協力して様々な課題に取り組むこととなった。

○日時・場所：2014 年 11 月 25 日（火）14:00～16:00・兵庫県立大学神戸商科キャンパス

○参加数：高校 22 校 23 人、大学 25 大学 29 人、コンソ事務局 1 人、計 53 人

●2015 年度（平成 27 年度）「円滑な高大連携に向けて」講演会

講師：文部科学省 高等教育局主任大学改革官 新田正樹氏

大学入試センター 試験・研究統括官 教授 大塚雄作氏

日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター副主幹 南浩司氏

○日時・場所：2016 年 2 月 2 日（火）13:30～16:30・兵庫国際交流会館

○参加数：高校 41 校 47 人、大学 15 校 36 人、他 17 人、計 100 人

●2016 年度（H28 年度）「高大接続改革の行方」

1. 講演「高大接続改革の行方」 関西国際大学 学長 濱名篤氏

2. グループに分かれての意見交換

- ・高校の教育の現状・高大接続教育、高校の授業、大学の授業の在り方・大学の入学前教育
- ・大学での授業の受講（高校での単位認定と大学での単位認定）・大学教育への期待
- ・大学入試改革・その他、高大連携に関すること

3. 「文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）について」のご案内

話題提供者：関西学院大学 高大接続センター課長補佐 山田高幹氏

4. 各グループ意見交換内容の発表

○日時・場所：2017 年 3 月 7 日（火）14:00～17:00・兵庫国際交流会館

○参加者数：高校 24 人、大学 25 人、コンソ事務局 3 人、計 52 人

●2017 年度（H29 年度）「新学習指導要領と高大接続について」

1. 講演「新学習指導要領と高大接続について」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室 室長 白井俊氏

2. グループに分かれての意見交換

- ①大学入学者選抜方法の変更による中等教育（高等学校教育）への影響と大学における入試改革
- ②新学習指導要領が高等学校や大学の教育に及ぼす影響
- ③学習評価の改善方法（多面的総合的評価におけるポートフォリオ(キャリアノート)の活用など)
- ④アクティブラーニングの導入およびその授業実践
- ⑤「出前授業」等の大学の授業の受講(高校在学時に大学の授業を受講することの有意性、受講時の問題)

⑥「教育の情報化」と新しい情報技術を活用した教育

⑦大学が入学予定者に対して行う準備教育（入学前教育）の内容

○日時・場所：2017年12月26日（火）13:30～17:00・関西国際大学 尼崎キャンパス

○参加者数：高校32人、大学46人、コンソ事務局2人、計80人

●2018年度（H30年度）「2021年度入学者選抜要綱の見直しへの対応についての意見交換会」

1. 意見交換会（2つのグループに分かれて、テーマ別に高校と大学間で意見交換）

グループⅠ「一般選抜」

①「学力検査」と学力の三要素の多面的・総合的な評価の方法

②英語の4技能評価のための外部試験の活用 ③出願書類等とその選抜への活用

グループⅡ「総合型」および「学校推薦型」選抜

①調査書、推薦書など出願書類とその選抜への活用

②本人の記載する書類とその選抜への活用 ③「学力検査」などによる学力の評価方法

2. 意見交換の報告およびパネルディスカッション（質疑応答）

「出願書類等のフォーマット共通化について」

パネリスト 兵庫医療大学 日高正巳氏、兵庫医療大学 前田哲男氏

兵庫県立三木高等学校 家氏宏育氏

コーディネーター 関西国際大学 浅野考平氏

○日時・場所：2018年10月16日（火）15:00～18:00・兵庫国際交流会館

○参加者数：高校37人、大学30人、コンソ事務局3人、計70人

●2019年度（平成31年・令和元年度）「2021年度大学入学者選抜改革の行方と新学習指導要領について」

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

1. 講演「2021年度大学入学者選抜改革の行方と新学習指導要領について」

独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括補佐官（兼）審議役 白井俊氏

2. パネルディスカッション

○日時・場所：2019年3月10日（火）15:00～18:00・兵庫国際交流会館 3階多目的ホール

●2020年度（令和2年度）「コロナ禍における学びと教育現場の対応について」

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン開催

1. 講演「高大接続に関わる立場から見える、コロナ禍における学びと教育現場の課題」

NPO 法人 NEWVERY 理事 倉部史記氏

2. 意見交換（コロナ禍における学びと教育現場の対応について）

○日時・場所：2021年2月25日（木）15:00～17:00・オンライン会議システム（ZOOM）

「ひょうご高校大学コンソーシアム 2021」実施報告書

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

・プログラム名 ひょうご高校大学コンソーシアム 2021

『探究』を教育活動で展開するにはどうしたらよいのか

・日時 2021 年 12 月 9 日（木） 13：30～16:30

・会場 オンライン（Zoom）開催（配信場所：兵庫国際交流会館 1 階・コンソ事務局）

・概要 兵庫県内の高校教育、大学教育の一体的な連携に取り組むべく、2014 年度より兵庫県教育委員会、県立高等学校、加盟校が協力・連携して、高校と大学による意見交換会「ひょうご高校大学コンソーシアム」を開催。2021 年度は、2022 年度から高等学校学習指導要領において新しく導入される「探究学習」をテーマに、講演と意見交換会を開催した。「教育の連携」の観点で高校と大学の教職員間で、「探究学習」をめぐる課題の共有、意見交換を行った。

・対象 兵庫県下の高校教職員・加盟校教職員

・内容 講演と加盟校・高校からの話題提供・意見交換会の 2 部構成

1 部：講演「『探究』を教育活動で展開するにはどうしたらよいのか

ー東京の 6 年制私立中高の実践から」

関西国際大学 准教授・元品川女子学院教頭 石井豊彦氏

2 部：「探究学習と高大連携」の取り組みに関する話題提供と意見交換。

（話題提供校・提供者）加盟校 3 校・県立高等学校 3 校

■兵庫大学の探求学習パッケージ 兵庫大学 高等教育研究センター 岩田薫氏

■探求学習と高大連携について 神戸大学 教授 伊藤真之氏

■高大連携と探究学習 関西国際大学 学長補佐 教授 福島一政氏

■総合的な探究の時間について 尼崎稲園高等学校 教諭 福舂幸一氏・湊谷宗行氏

■学校全体での「探究学習」の取り組み～大学への期待!!

尼崎小田高等学校 教諭 福田秀志氏

■探求学習 三木北高等学校 教諭 仁木英貴氏

・主催 一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 ・後援 兵庫県教育委員会

ープログラム実績ー

参加者数：45 名（内訳）加盟校 16 校 20 名、高等学校 17 校 21 名（計 33 校 41 名）、

兵庫県教育委員会 1 名、コンソ事務局 3 名

【大学】加盟校 16 校：大手前短期大学、関西国際大学、甲南大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、兵庫大学、兵庫短期大学、兵庫医療大学、兵庫医療大学、兵庫県立大学、芸術文化観光専門職大学

【高等学校】兵庫県立高等学校 17 校：尼崎稲園高等学校、尼崎小田高校、淡路三原高等学校、伊川谷高等学校、伊川谷北高等学校、生野高等学校、伊丹北高等学校、小野高等学校、加古川南高等学校、篠山東雲高校、豊岡高等学校、長田商業高等学校、西宮高等学校、西脇高等学校、兵庫工業高等学校、三木北高等学校、武庫荘総合高等学校

【教育委員会】兵庫県教育委員会

【参加者アンケート（感想抜粋）】

1、全体の内容について

- ・大学や他校の取り組みを知る機会はなかなか無いため、よかった。
- ・高校だけでなく、大学からの意見も聞けて非常に良かった。各高校の悩みも知れたので、解決策を見いだせる気がした。高校のみでなく、大学側の苦悩も知ることができた。
- ・「探究」がメインでしたが、今後の教育活動に向けて参考となるお話が聞けました。
- ・他校の取り組みや大学の先生方との意見交換ができたことがよかった。
- ・探究の学びによる効果について共有することができた。
- ・高校教員の課題がわかり、大学として協力できることの方針がはっきりした。

2、1部 講演について

- ・探求活動が高校教育にどのように位置づけられるかが分かりやすかった。
- ・探究の枠にとどまらず、リーダーシップ講座や課題解決学習など多方面でも活用できるようなお話が聞けた。
- ・学校行事をうまく活用して生徒が主体的に取り組むことのできる活動を盛り込んでいる、非常に参考になる取り組みを紹介していただいたためよかった。
- ・本校は工業高校で、課題研究の取り組みは以前から取り組んでいますが、企業とのコラボレーションなどのお話を伺い、新たな取り組みを考える、いいきっかけになりました。
- ・探求のテーマの設定やすすめかたのヒントがもらえた
- ・都内の私立進学校の実践事例として興味深かった。先進校の具体的な取組を知る機会となった。
- ・高校卒業後 10 年後の 28 プロジェクトの取組や、多くの課題にご苦労されながらも周囲を巻き込みながら進めていく姿勢に感銘を受け、また共感を覚えた。

3、2部 話題提供・意見交換会について

【兵庫大学】

- ・QFT+専門分野のお話を伺い、探求学習パッケージなどの活用の機会を聞いて良かったです。
- ・統計や分析などをもっと聞きたいと思った。意見交換の際に出された資料についてもっと教えていただきたいと思った。
- ・探究学習が入試に利用できる可能性を感じました。
- ・IR の観点を取り入れている点が興味を持ちました
- ・パッケージでの高大連携の分類がとても参考になりました。

【神戸大学】

- ・高校と大学教員の連携、研修プログラムのお話など、共感できることも多くとても参考になりました。探究学習の捉え方・取り組み方について考えさせられました。
- ・大学で求められる国際的科学的な探究力について知ることができた。
- ・探究学習の意義について端的な説明に納得できた。
- ・ROOT プログラムの紹介が参考になりました。
- ・通常耳にする機会のない大学の取り組みを説明いただけてよかった。

【関西国際大学】

- ・高校と大学の橋渡しのな高大連携の機会があれば、とてもありがたいです。
- ・多くの高校の探究を支援してくださっていることがよくわかりました。

- ・大学側の苦労や取り組みの様子がよくわかった。
- ・大学でのワクワクした学びを目標に、高校での学びを進める方法について聞くことができた。
- ・大学進学率50%を越える大学の現状がよく伝わり、多様な層の高校と高大連携を積極的に進めていこうとする大学側の姿勢がよく伝わったためよかった。

【尼崎稲園高校】

- ・学科ごとの取り組みが素晴らしかった。
- ・キャリアガイダンス部を設置し、学年を追って学校全体で探究に取り組まれている様子がわかった。
- ・これから探究学習を進めようと模索する高校の姿に共感を覚えた。
- ・担当者の専門性という課題は各校共通だと分かった。
- ・本校でも活用できる可能性を感じました。

【三木北高校】

- ・各学年の実施内容を紹介され、参考になりました。
- ・先生方の苦労に共感を覚えた。
- ・探究活動の取り組みがよく分かったが、もう少し詳しく知りたかった。
- ・探究と進路指導をリンクさせた取組の様子がわかった。
- ・生徒や地域の実態に合わせて、探究学習を進めているところがよいと感じた。

【尼崎小田高校】

- ・領域別の事例がわかった。
- ・類型をひとつの突破口から、探究学習を学校全体のものに広げていく取組、地域との様々な連携は、大変参考になったため。
- ・実践事例がわかりやすく、参考になった。取り組みが多岐にわたり、非常に興味深かった。
- ・本校でも活かせることもありました。

4、2部：意見交換について

- ・探究の学びの重要性やそのための手法について様々な意見を聞くことができた。
- ・大学と高校の実情がよくわかりました。
- ・本音で核心に触れる議論ができてよかった。
- ・教科横断型学習の質問に、ヒントを示唆していただいたところは今後の参考になったため。ただもう少し時間が長く設定した方が、より多くの意見が活発になったと思う。

5、感想・今後についての意見

- ・今回初参加しました。非常に有意義な講演、発表が聞けて大変参考になりました。次回もぜひ参加し、自己の資質向上に役立てたいと思います。
- ・他校の取り組みをもっと知りたいです。とても貴重な情報が多くて役立ちます。
- ・探究学習に関する研修。
- ・どの大学がどんなテーマの探求に協力していただけるのかを知りたい。

・指導助言する教員の一番の学びは、生徒や学生の発表を実際にたくさん聴講することだと思う。学生や生徒の実際の発表をリモート配信できないか。特に教員の手のあまり入っていない発表を素材として、研修してはどうか。

・本日の意見交換の中でも、個別で実施していった先に負担感の増大が危惧されておりましたので、高等学校の探求の授業で大学教員が関わる枠組みが可能か、議論しても面白そうだと感じました。本日のような事例紹介は、今後もぜひお願いしたいところです。

・本コンソーシアムと連携しながら高校の学びを充実させていきたいのでよろしくお願いします。

・高大連携は、大学・高校ともに目的や実施内容に差があります。エリア・レベルごとにブロック分けをして実施できる内容の高大連携・教育連携ができたらと思います。

・各大学と高校の実情がよくわかりました。感謝申し上げます。コロナが収まり、リアルな場でワークショップ等ができるとさらに有意義な場になると思います。

・今回のような、多くの高校が課題として捉え大学側の力を必要とするテーマを取り上げ、継続的に開催してほしいです。

・高校からの具体的な希望を聞き、大学側の本音を聞く、またその逆を行うような会があるとありがたいです（これだけの数の高大学が情報交換をできる機会はありません）。

以上

2022 年度 高大連携委員会 回答フォーマット

学校名		所属		氏名	
-----	--	----	--	----	--

2022 度 高大連携委員会 事業計画を実行・取組課題を推進するにあたり、下記についてご意見・ご提案を頂きたく存じます。回答いただきました資料につきましては、集約の上、共有させていただきます。

【取組1】大学と高等学校の意見交換会の実施<ひょうご高校大学コンソーシアム>

１）「ひょうご高校大学コンソーシアム」の開催（高校と大学の接続をめぐる意見交換による県下の高大連携推進）に向け、取り上げたいテーマがあればお書きください。	
[回答例]：探究学習におけるテーマの選定方法について等	

【取組2】加盟校の魅力を発信

1) 合同進学説明会による情報発信

合同進学説明会（オンライン）開催についてのご意見をお書きください。 (既存のガイダンスとの差別化案や県内進学の特長を生かすための意見でも構いません)
① 開催時期・対象学年： [注意]：年間の開催回数についてもお聞かせください、
② 内容・方法のご提案： [回答例]：キャリアサポートを主体とした内容とする。入試制度の内容とする。等
③ 高校生に質問したいこと： [回答例]：進路決定における学力以外の要素

【取組2】加盟校の魅力を発信

2) 大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページでの情報発信

2022 年度 学び発見 Map（学部学科情報）について、添付ファイルより貴学内容を確認の上、修正・追記ください
①大学・学部学科名称・ホームページ URL・学びの分野について

②今年度の貴学「オープンキャンパス」の開催日程について
③今年度の貴学「学園祭」の開催日程について
④貴学での高大連携または高校生対象の「探究学習」に関する取組についてうかがいます。
④-1 取組状況について A 実施している B 実施していない C 検討中 → 実施している場合は、その内容について：
④-2 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページ上で貴学の探究学習に関するお問い合わせ先の掲載について A 希望する B 希望しない → 希望する場合は、（担当・電話・メールアドレス）をご記入ください
④-3 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページ（note）上で、貴学の魅力の一つとして発信したい探究学習の取組事例があれば、今年度、順次情報を掲載します。情報掲載（記事提供または事務局による取材）を希望しますか？ A 希望する B 希望しない C 内容相談の上、検討したい

【その他】高大連携委員会へのご質問・期待することなどがあれば、自由にお書きください

--

以上、ご多忙のところ恐れ入りますが、5月31日（火）までにご回答ください。

以上